

85. 9. 9

No.2034

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

（動労組合員 新潟・K）

「はきり言って私はイヤです..」

（動労革マル 盛岡・A）

「質の良い奴隷になれ..」

「鉄」「分割」「異常化」「阻止」「扇動」「期着」「粉碎」  
出向させられた動労組合員の声

今、動労の取場で何が起っているのか

動労「本部」革マルは、雇用を守るために「骨身を削って働かねばならない」「辛酸を  
尽くさねばならない」と称し、「三本柱・活用策クリヤー」運動に全力をあげている。こ  
の反動方針のもと、すでに二二〇〇名が出向にに応じているが、「いすゞ」に出向した動労  
組合員の声を紹介する。

産業報国「買手は質が悪いと買ってくれな」と買手は質が悪いと買ってくれな  
戦士へとはりきりて修業中

動労盛岡地本新幹線盛岡第二運転所支部のAは「いすゞ」川崎工場に出向しているが、支部は帰  
盛したAを招き五月四日に報告集会を開催した。  
そこでAは次のように述べている。

- ・通勤だけで疲れる状態である。
- ・日課は六時起床、八時十五分出勤から昼食時間  
四五分を除き、残業時間を含め十九時まで立ち  
通して帰寮は二〇時三十分頃である。
- ・毎日の仕事で足が棒になるような状態だが、し  
っかりしなければと耐えてがんばっている。
- 等々と、「仕事のハードさ」に悲鳴をあげながら  
も「週間ダイヤモンド」なる経済誌で、「いすゞ  
人事企画部長・南」が「熱心さ」をほめたたえた  
ことを唯一の支えに、「逆包囲網を売って歩くこ  
との成果だ」などと強弁している。

盛岡地本・Aの場合  
そして、なんと「買手は質が悪いと買ってく  
れない。質の良いものを売る覚悟でがんばって  
いる。ダウンが続出すると評価を落すだけだ。故に  
派遣する場合、酒の好きな人はやめた方がよい。  
体調を崩すと風邪を引き易くなるし急性胃炎にも  
なる。ハードな仕事はいすゞだけではない。民間  
企業なら皆そうだ」と、自動車産業資本の労  
働者搾取と抑圧、非人間的労務管理を評価したう  
えで、資本家に雇ってもらうためには死んでもか  
まわない、奴隷のように働くんだと叱咤している。  
そして、出向の目的を「国鉄を国鉄として残す  
ために、いすゞの民間企業で強じんな精神力をつ  
くり、肉体的に鍛え、己の意識変革をちとるた  
め」とし、「みんなが体験すべきである」といい  
きっている。

組合のソルマ。「いつ戦死するのかわからない」  
苦痛・絶望→自暴自棄

出向した組合員はAのような革マル分子ばかり  
ではない。

反動方針をおしつけられ、出向せざるをえない  
状況においこまれ、仕方なしに出向に応じたもの  
の厳しい労働の現実には悲鳴をあげ、後悔、失望し  
ている者が圧倒的多数なのである。

動労新潟地本酒田支部のKは、支部機関紙「動  
労さかた」の中で次のように報告している。

「精神的苦痛はガマンできません。しかしガマン  
して一年もたせなければならぬと思えます。ラ  
インにおわれる夢をみたり、ライン遅れのブザー  
の音で目がさめてしまいます。はつきりいつて私  
はいやです。そういう生活はいつまでガマンでき  
るかわかりません。体重も四キロ弱へりました」  
と述べている。

Kは一年間でさえもたないような、自らの限界  
を超えた苦痛を訴えることで、そうした状況に追  
いこんだ反動方針を弾劾し、組合員に対して出向  
に応じるなど呼びかけているのである。

しかし、出向中途でのダウン（脱落）は「動労  
の評価を下げ、組合員の苦闘を踏みこむ行為」

新潟地本・Kの場合  
として組合員をしばらくつける革マル反動分子のま  
えに、自暴自棄に陥ったKは、なんと「俺は今、  
闘っている仲間を守る為に、祖国を守る為に自ら  
赤紙をにぎり取っています。の工場で銃のかわりに  
インパクトをにぎりしめて闘っている。いつ戦死  
するか俺にも誰にもわからない」とまでいいきる  
のだ。

動労「本部」革マルは、「雇用確保」が唯一絶  
対であるかのように主張し、組合員を出向にかり  
たてている。「雇用」さえ確保できれば、あとは  
どうなってもよいというのか。

かりに、「雇用」が守られたにせよ、莫大な借金  
を背負わされた新会社で働く労働者は、賃下げ、  
合理化、運転保安無視の労働強化を強制されても  
文句もいえず、奴隷のように働かされるのだ。

去るも地獄、残るも地獄なのである。  
国鉄労働者に今求められていることは、骨身を  
削って当局に忠誠を誓い、雇用を守ってもらうの  
ではなく、攻撃と真向うから対決し、実力闘争で  
雇用を確保する以外にないのだ。